

十九世紀の広東語(5) “在”の変遷

竹越美奈子

“在”の変遷——現代広東語では“<sup>c</sup>喺[hei35]”——について述べる。

—

現代広東語の“喺”は文法機能と意味機能によって、以下の五類型に分けられる。(例文は横田・竹越 2010 より)

A. 動詞「～にいる」

1) 黄太喺房處。(黄太太在屋里。)  
「黄夫人はご在宅です」

B1. 介詞(動詞句の前)「～で(～する)」<動作の進行場所を表す>

2) 佢喺嗰度影相。(她在那里照相。)  
「彼女はあそこで写真を撮っている」

B2. 介詞(動詞句の前)「～で(～する)」<動作の起点を表すもの>

3) 佢喺香港嚟嘅。(她从香港来的)  
「彼女は香港から来た」

C1. 介詞(動詞の後, 賓語あり)「～に(～する)」

4) 放啲嘢喺檯上面。(放些東西在桌子上。)  
「荷物をテーブルの上に置く」

C2. 介詞(動詞の後, 賓語なし)「～に(～する)」

5) 坐喺張沙發上。(坐在那张沙发上。)  
「あのソファに座る」

早期粵語文献における“在”から“喺”への語彙交替を以上の類型別に示すと表一のようなになる。

表一 “在”から“喺”への語彙交替<sup>i</sup>

	A	B 1	B 2	C 1	C 2
第一段階	在				
第二段階	在	在/喺		在	
第三段階	在/喺		喺	在/喺	在
第四段階	喺				在/喺
第五段階	喺				

表一より、“在”から“喺”への語彙交替の時間的な順序は「B 2 > A, B 1, C 1 > C 2」であったことがわかる。これをさらに分析すると、B 2は動作

の起点を表すものであり、AとB1は動作の進行している場所を表している。C1とC2はいずれも動作の帰結点を表している。すなわち、語彙交替は動作の起点を表すもの(B2)から始まり、他の例(まずA・B1・C1、そしてC2へ)に拡散したと言える。A・B1・C1の3類型とC2の違いは、統語的に後者は“喙”の直前に動詞があり、前者はそうではないという点にある。そしてこの、「直前に動詞がない」という特徴はB2も同様である。要するに、語彙交替は、起点を表す用例(B2)に始まり、おそらくは類推によって同様の統語的特徴をもつ類(A・B1・C1)に拡散し、後に統語的特徴は異なっても同じ語彙を使用するC2にも拡散して、最終的にすべての“在”が“喙”に交替したのである。以下に各類の例文を再掲する。

- 6) 黄太喙房處。(黄太太在屋里。)[A]
- 7) 佢喙香港嚟嘅。(她从香港来的)[B2]
- 8) 佢喙嗰度影相。(她在那里照相。)[B1]
- 9) 放啲嘢喙檯上面。(放些東西在桌子上。)[C1]
- 10) 坐喙張沙發上。(坐在那张沙发上。)[C2]

#### 図一 語彙交替が拡散する過程

B2 (起点を表す例のみが“喙”に) → A・B1・C1 (同類の統語的特徴(直前に動詞がない)なので“喙”に) → C2 (同類の語彙なので“喙”に)

品詞を考慮すればAは動詞でそれ以外は介詞ということになる<sup>ii</sup>が、品詞というのはカテゴリーを分ける方法の一つにすぎない。純粹に統語的特徴を考慮すると、C2類だけが、“喙”の直前に動詞があり、性格を異にしているのである。少なくともネイティブの認識ではそうであろう。(この項続く)

<sup>i</sup> 横田・竹越(2010)による。なお、同文では、このほかにB3類を設けている。B3類とは、

佢喙度食緊飯。(她在吃着饭)「彼女はご飯を食べているところだ」  
のように、動作が進行中であることを表す例である。B3類は同文の調査では1例のみしか現れないという理由で議論からはずしている。小文もB3類については論じないが、その理由は異なる。小文がB3を論じないのは、B3はB1と同類だと考えるからである。というのも、広東語では量詞は指示詞を伴わなくても使用できるので、“(度”は場所を表す量詞)

佢喙呢度。(她在这儿。)  
「彼女はここにいる」

佢喙嗰度。(她在那儿。)  
「彼女はあそこにいる」

とともに、特にこことかあそこか言わなくても文脈から明らかなら

佢喙度。(她在。)  
「彼女はいる」

と言えるのである。(ただし、“\*佢喙。”は不可。)したがって、“佢喙度食緊飯。(她在吃着饭)「彼女はここでご飯を食べているところだ」”も“佢喙呢度食緊飯。(她在这儿吃着饭)「彼女はご飯を食べているところだ」”と同類で、動作の進行している場所を表していると考えられる。

<sup>ii</sup> というか、そもそも介詞という文法範疇そのものが北方語的であり、南方の漢語においては介詞というより動詞であり、介詞構造というより連動文と考えた方が良いのではないだろうか。